

明石インクルーシブ・ビーチ 2026 活動報告

～障害があっても海を楽しめるように～

看護学部 看護学科

◎B4 わたなべ ゆいこ 渡部 結子、准教授 おおむら かよこ 大村 佳代子

キーワード

インクルーシブ・ビーチ、障害者、ボランティア



研究概要

明石市では「あかしインクルーシブ条例」や「明石市ユニバーサルデザインのまちづくり実行計画」のリネンを踏まえて、誰もが安心して明石の海を楽しむことができる環境づくりとして、NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト (SUBP) と連携し、障害のある市民が「海に入る」という体験を通して「できない」を「できる」に変えることを目的とした明石インクルーシブ・ビーチが大蔵海岸で実施されている。具体的な活動としては水陸両用の車いすを用いての介助や、砂浜にマットを敷いた車いすでの移動支援などが行われている。

兵庫県立大学看護学部においてもこの活動に協力している。今年度は令和 8 年 8 月 11 日に実施予定で、看護学部 3 回生 3 名と 4 回生 2 名がボランティアに参加する。看護職の卵として、障害のある方が海に入って楽しめるようボランティアを行うため、その様子について報告する。



明石インクルーシブ・ビーチの告知ポスター

主催：明石市

協力：兵庫県立大学看護学部

デジタルヘルスケアセンター等



水陸両用車いす
砂浜を走行でき、そのまま海に入って水に浮かぶ体験をサポートする



砂浜にマットを敷く様子
車いすなどの車輪が埋もれるのを防ぎ、波打ち際までのスムーズな移動を支援する

(明石インクルーシブ・ビーチ 2026 in 大蔵海岸 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000166.000074318.html>)

アピールポイント

環境を整えることで、障害がある人も家族や友人と「みんな」で一緒に海を楽しめる環境を構築することができる。このことは、あかしインクルーシブ条例が掲げる「誰もが安心して楽しみながら生活できる」という理念を、活動を通じて市民への理解を広げる機会となると考えられる。障害のある人が安心して外出することができ、孤立予防にもつながると考えられる。